

さて、最初の練習をしてみましょう。

【問】「名越幸生（東北学院中高教諭）を日本の首相にすべきである。なぜなら、日本が良くなるから。」
と言われたら、どう考えますか？ アカイの記号を○で囲み、その理由を書きなさい。

あなたは ア. 賛成する
 イ. 反対する

その理由:

- ★ 何かを主張する際には、根拠・理由を伴わせることが、重要です。
- ★ ディベートでは、「その根拠・理由をもって、私は判断した」と主張し、その内容を聞き手（ジャッジ）に理解してもらうことが大切です。

【1】ディベートとは、ある問いに対して「それでは実際にやらせてみて、本当によくなるのか？」を試して（“科学”のように）真偽（正解）を確認するものではなく、（簡単には試せないなどの理由があり）「実現させる前に検討しよう」というシミュレーションなのです。

【2】ディベートにおいては、（消極的であっても）必ず賛成か反対かを判断し、選択して下さい。

仮に、「分からないから選択できない」、あるいは「別に、どちらでもいいので…」という人は、その場合に、

A：選択しないことで、あなたが望んでいなかった不利益を予想外に被っても、それを受け入れられますか？
そうでなければ、（正解かどうかは不明だとしても）現段階での見解を元に、必ず判断して下さい。

「先送りとは一見、決断を先送りしたように捉えがちですが、実のところは『決断しないという大きな決断』をしたことにほかなりません。」（瀧本哲史著『武器としての決断思考』p.71）

B：それでも判断できない場合には

① その論題でディベートをするのは避けた方がいい（例：「神はいる。是か非か」など）

② 内心ではディベートをしたくないか、そもそもあなたは、ディベートには向いていない可能性がある

先に②について、ディベートは万能ではありませんし、別な方法の議論を楽しむのも自由です。例えばディスカッションや座談会、新しい手法では「ワールドカフェ（THE WORLD CAFE）」などがあります。ルール（後述）があるディベートはやや窮屈かもしれませんが、できればディベートでの訓練で苦手を克服して欲しいです。

①について、競技ディベートにおける論題は、ディベートの長けた方々によって十分に検討されて、肯定・否定の両方に一理あるものが選ばれています（後述）。ですからそもそも、①には当てはまらないようになっているので、安心して、勇気を出して、責任を持って、判断して下さい。

【3】ディベートにおいては、ある判断をしたら必ず理由を伴わせて欲しいのです。さて今回書いた理由は

①：他の人は納得してくれそうですか？

②：名越さんはその理由を聞いて、怒らないと思いますか？あるいは、同意し、喜んでもらえそうですか？
（反対意見でも理由が正当で納得できれば怒りませんし、賛成意見でも不可解な理由には怒るでしょう。）

A：世の中には、賛同するに値しない理由付けがあります。これは是非知っておいて下さい。

例：「何となく」（←内々に想定している理由を、言葉で表現できない＝『言語化』できていない）
「イケメンだから」（←筋違い！）

B：お笑いのネタなどの場合は、理由が分からない方がウケるかもしれません。

例：「開国すれば、済むのです！」（…元ネタは各自探して下さい）

【4】ディベートという競技においては、皆さんの判断や主張が、その理由と共に、必ず評価されます。

独りよがりな意見や主張は、他人には賛同されず、残念ながら通りません。

“全てが他人に評価される”ことが大前提の競技であることを知っておいて下さい。